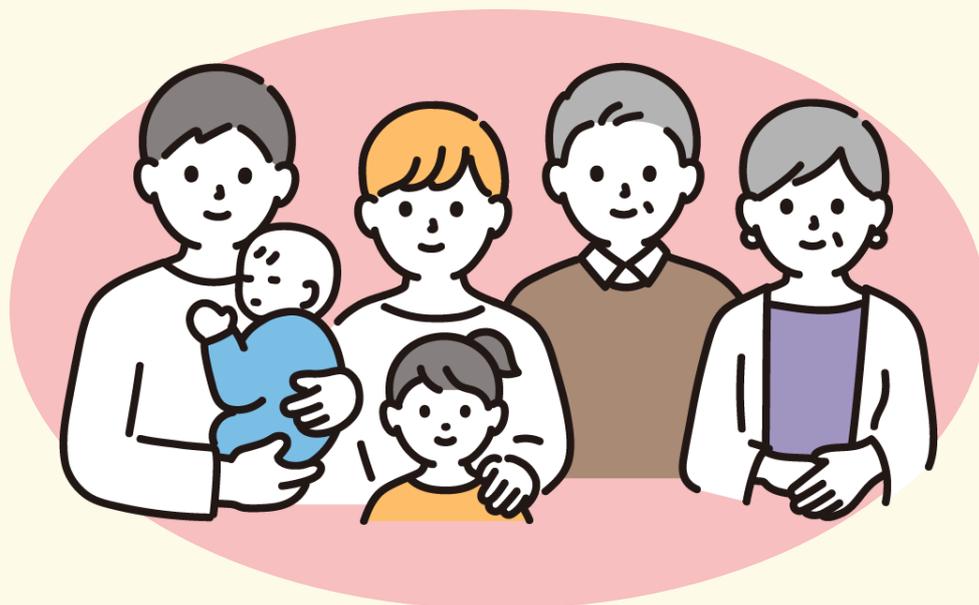


令和5年度 人権・男女共同参画に関する 市民意識調査報告書

【概要版】

誰もがともにいきいきと、個性と能力を発揮できるまち



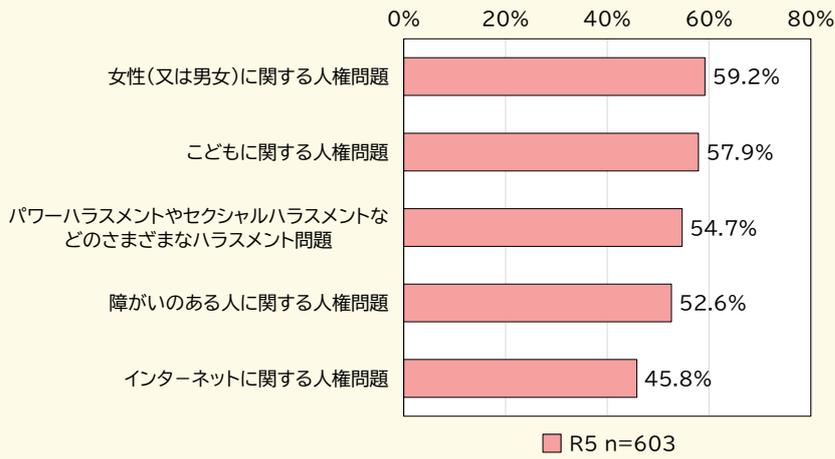
調査の目的	人権問題及び男女参画状況についての市民の考え方や意見を把握して、平成30年度結果及び国・県の調査結果等と比較検討し、人権が尊重される社会及び男女共同参画社会に向けての今後の施策の方向づけの基礎資料とします。
調査期間	令和5年7月1日(土)～令和5年7月31日(月)
調査対象	熊本市在住の満20歳～69歳の市民2,000人を無作為に抽出
調査方法	郵送法(郵便による調査票配布・回収)及びQRコード読み取りによるWEB回答

熊本市文化市民局人権推進部男女共同参画課

〒860-8601 熊本市中央区手取本町1番1号
TEL:096-328-2262 FAX:096-351-2030
e-mail:danjokyoudou@city.kumamoto.lg.jp

令和5年10月
熊本市

人権問題に対する関心度

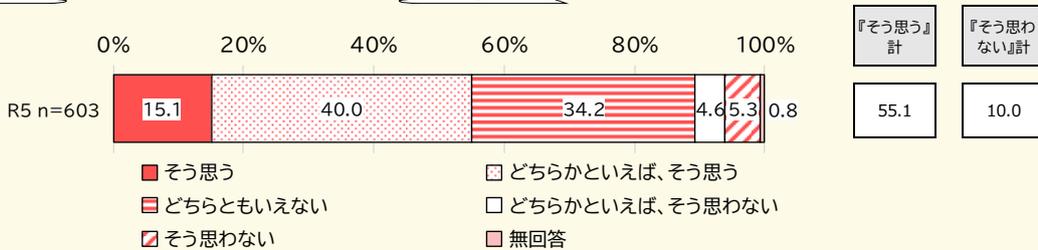


さまざまな人権問題(設問の選択肢)

1 女性(又は男女)に関する人権問題	12 犯罪被害者等に関する人権問題
2 子どもに関する人権問題	13 インターネットに関する人権問題
3 高齢者に関する人権問題	14 アイヌの人々に関する人権問題
4 障がいのある人に関する人権問題	15 難病患者に関する人権問題
5 部落差別(同和問題)に関する人権問題	16 北朝鮮当局による拉致被害者等に関する人権問題
6 外国人に関する人権問題	17 ホームレスの人々に関する人権問題
7 性的少数者(性的マイノリティ)に関する人権問題	18 震災等の災害に起因する人権問題
8 水俣病に関する人権問題	19 自死遺族に関する人権問題
9 ハンセン病回復者等に関する人権問題	20 新型コロナウイルス感染症等の感染症に関する人権問題
10 エイズ患者やHIV(エイズウイルス)感染者に関する人権問題	21 パワーハラスメントやセクシャルハラスメントなどのさまざまなハラスメント問題
11 刑を終えた出所者に関する人権問題	

どの人権問題に関心があるかを尋ねたところ、関心のある人権問題の割合は、上位から、「女性(又は男女)に関する人権問題」、「子どもに関する人権問題」、「パワーハラスメントやセクシャルハラスメントなどのさまざまなハラスメント問題」という順になっています。

人権を尊重する意識の変化



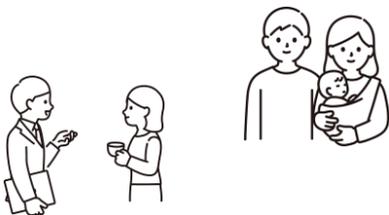
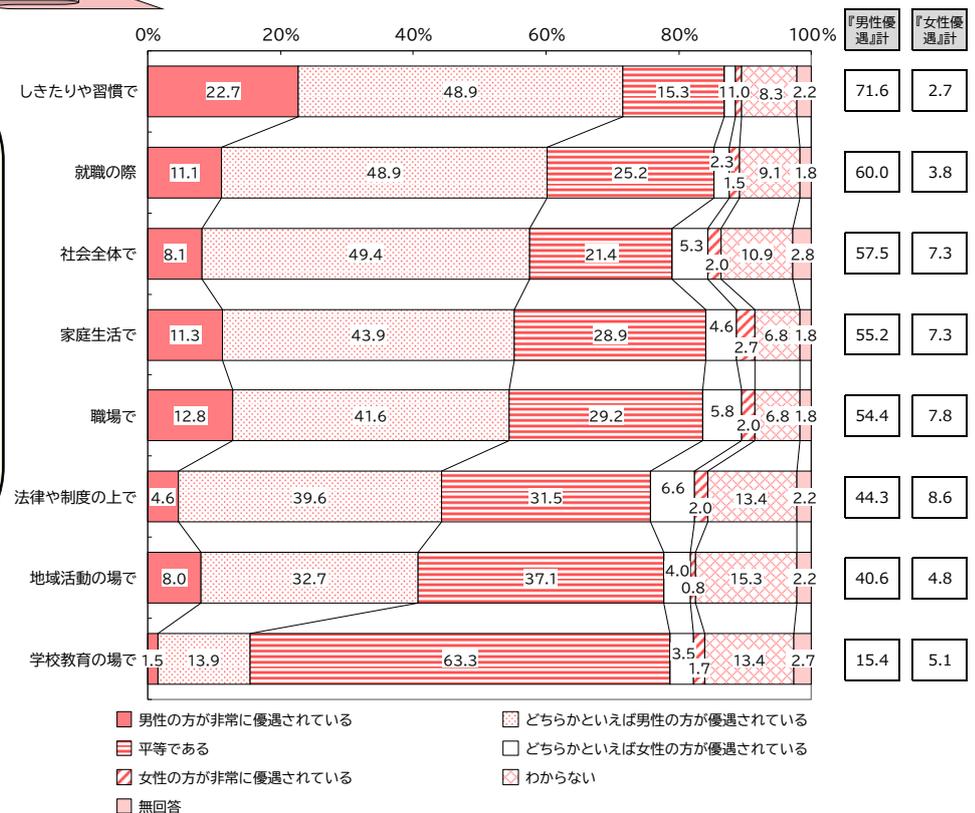
人権を尊重する意識が数年前に比べて高くなっているかを尋ねたところ、「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『そう思う』層の割合は**55.1%**、「どちらかといえば、そう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』層の割合は**10.0%**、「どちらともいえない」は**34.2%**となっています。この結果から、**人権を尊重する意識が高くなったと感じる方が多いことがわかります。**

男女の地位が平等だと思うか

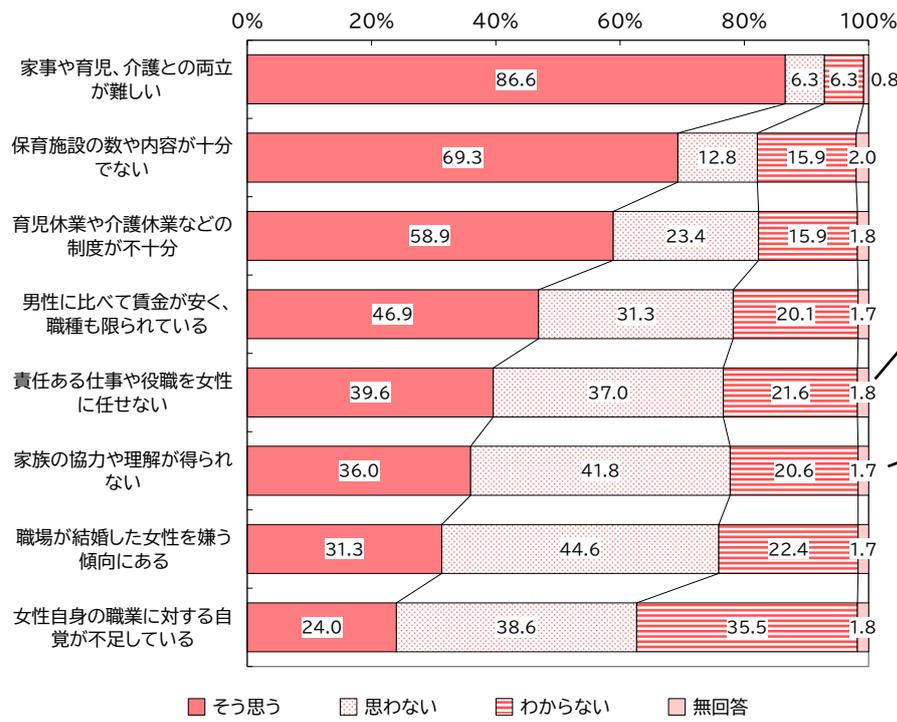
さまざまな場面において男女の地位が平等だと思うかについて尋ねたところ、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』層の割合は、「しきたりや習慣で」の割合が最も高く、これに「就職の際」、「社会全体で」が続いています。

一方で、「平等である」は「学校教育の場で」の割合が63.3%と、特に高くなっています。

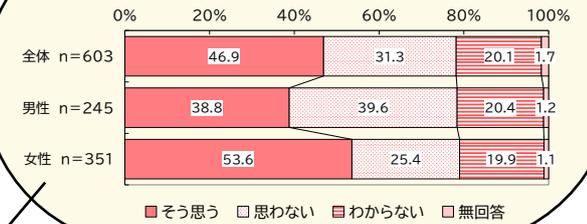
この結果から、社会全体で男性の方が優遇されているという意識が強いが、教育の場では、男女の地位が平等に近いと感じていることがわかります。



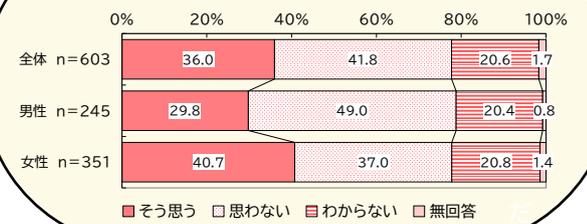
女性が働く上での問題について



「男性に比べて賃金が安く、職種も限られている」と思うか



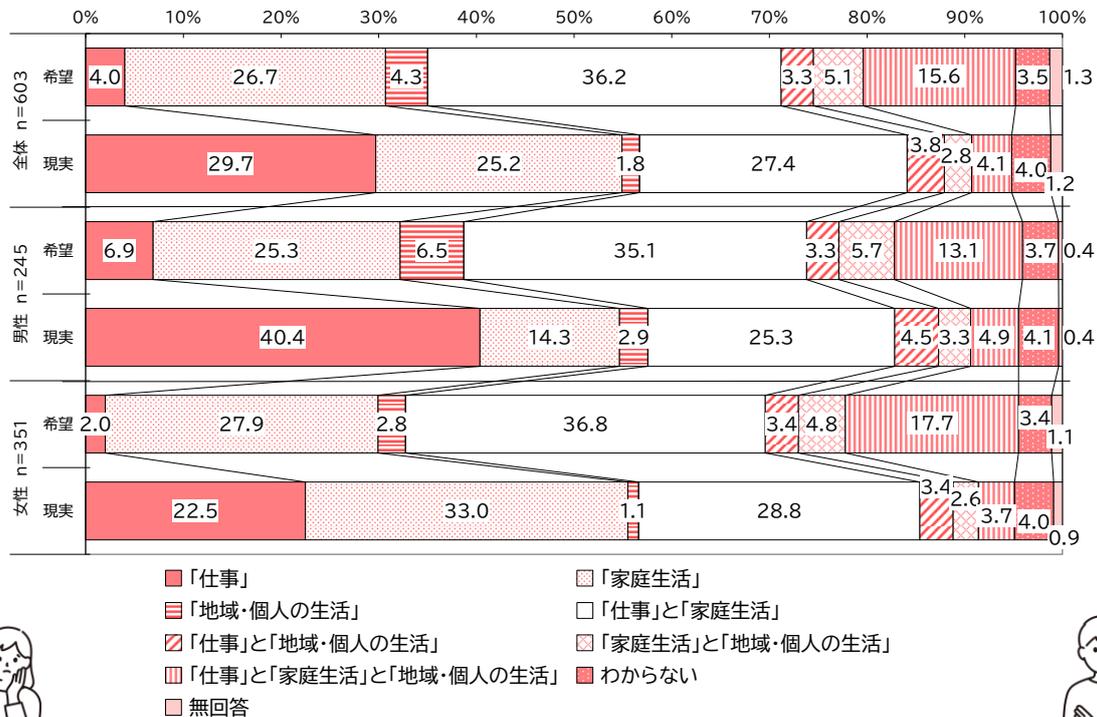
「家族の協力や理解が得られない」と思うか



女性が働く上での問題について尋ねたところ、「**そう思う**」と答えた割合は、「**家事や育児、介護との両立が難しい**」の86.6%が最も高く、「**保育施設の数や内容が十分でない**」の69.3%、「**育児休業や介護休業などの制度が不十分**」の58.9%が続いています。
また、性別にみると、「**家族の協力や理解が得られない**」・「**男性に比べて賃金が安く、職種も限られている**」の項目で、男女の感じ方に10%以上の割合の差があることがわかります。

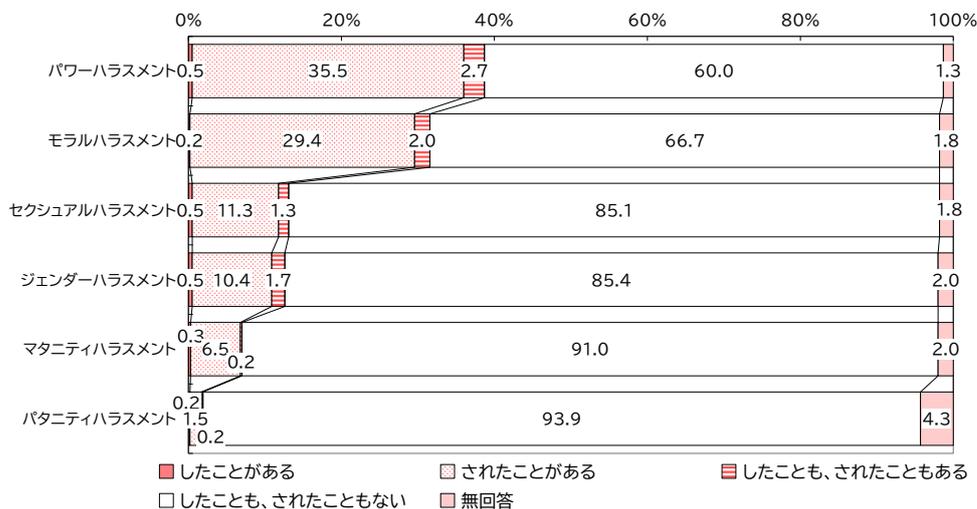


自らの生活についての希望と現実



自らの生活で優先したいもの(希望)と実際に優先しているもの(現実)を尋ねたところ、特に、希望の生活では「**仕事**」を優先したいの割合は**4.0%**なのに対し、現実の生活では**29.7%**と割合が高くなっています。また、希望の生活では「**仕事**」と「**家庭生活**」と「**地域・個人の生活**」を優先したいが**15.6%**なのに対し、現実の生活では**4.1%**と割合が低くなっています。
希望と現実の生活では著しいギャップが出ていることがわかります。

ハラスメント行為の加害・被害経験



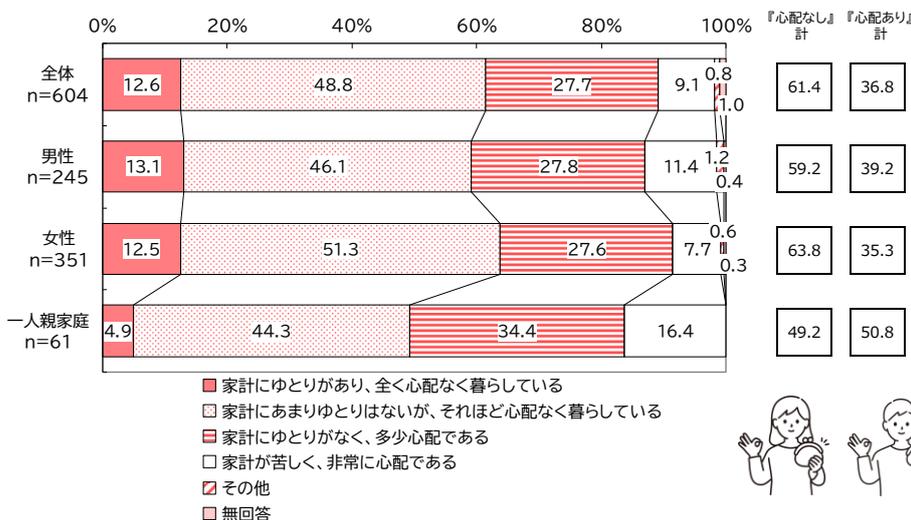
ハラスメントの説明

【パワーハラスメント】	職場等での上下関係や権力を利用した嫌がらせ行為
【モラルハラスメント】	身体的な苦痛ではなく精神的な苦痛を与える嫌がらせ行為
【セクシュアルハラスメント】	性的な言動によって不利益を受けたり、就業環境が害されたりする行為
【ジェンダーハラスメント】	男らしさや女らしさを強要する行為
【マタニティハラスメント】	妊娠や出産、子育てを理由とした嫌がらせや不利益な行為
【パタニティハラスメント】	男性で育児休業の取得や育児を理由とした嫌がらせや不利益な行為

ハラスメント行為の加害・被害経験について尋ねたところ、「されたことがある」人は、「**パワーハラスメント**」の35.5%が最も高く、「**モラルハラスメント**」の29.4%、「**セクシュアルハラスメント**」の11.3%が続いています。



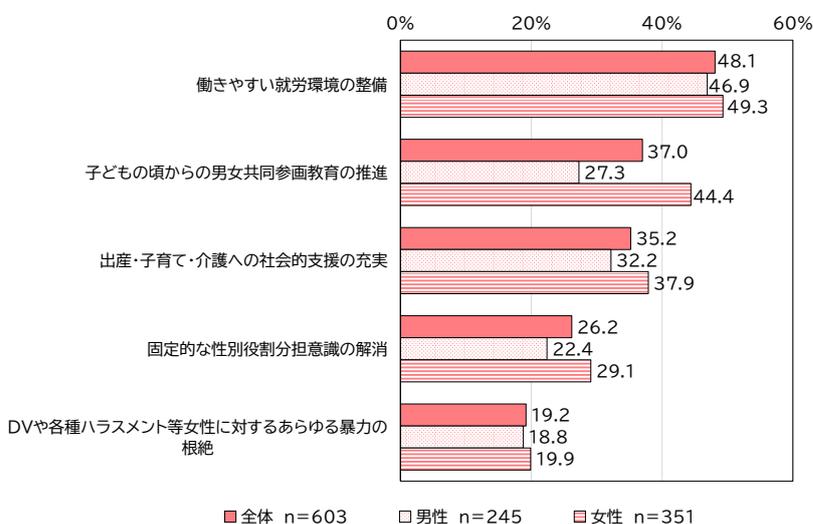
現在の経済的な暮らし向きについて



現在の経済的な暮らし向きについて尋ねたところ、全体としては、「家計にゆとりがあり、全く心配なく暮らしている」と「家計にあまりゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている」を合わせた『**心配なし**』の割合が**61.4%**、「家計にゆとりがなく、多少心配である」と「家計が苦しく、非常に心配である」を合わせた『**心配あり**』**36.8%**となっています。
性別による大きな差はみられませんが、**一人親家庭では、『心配あり』の割合が半数を超えています。**



男女共同参画を推進するために必要なこと



男女共同参画を推進するために必要なこと(設問の選択肢)

- 働きやすい就労環境の整備
- 子どもの頃から男女共同参画教育の推進
- 出産・子育て・介護への社会的支援の充実
- 固定的な性別役割分担意識の解消
- DVや各種ハラスメント等女性に対するあらゆる暴力の根絶
- 各種相談窓口の充実
- 貧困・障がい・性的少数者(LGBT)などの生活上の困難を抱えている人への積極的支援
- 職場における女性の積極的な登用と配置
- 女性の職業意識の向上と能力開発
- 家庭生活における男女共同参画の浸透
- 地域社会における男女共同参画の推進
- 女性の政策・方針決定過程への参画促進
- メディア(テレビや雑誌、インターネット等)における女性の人権の尊重
- 市民の活動拠点の充実
- 男女共同参画センターはあもにの積極的な活用や機能充実

男女共同参画を推進するために必要なことについて尋ねたところ、上位から、「**働きやすい就労環境の整備**」の割合が最も高く、「**子どもの頃から男女共同参画教育の推進**」、「**出産・子育て・介護への社会的支援の充実**」が続いています。
性別にみると、「**子どもの頃から男女共同参画教育の推進**」は、男性が27.3%、女性が44.4%で、女性の方がかなり高い割合となっています。